

## 国語科 学習指導案

日 時 平成25年11月27日 (水) 3校時  
場 所 3年1組 (40名) 図書室

指導者 司書教諭 山本みづほ  
学校司書 梶川由香理

### 1 単元名

いにしえの心と語らう 夏草『おくの細道』から

### 2 単元について

#### (1) 生徒観

本学級は、学級経営においてグループ活動を取り入れ、朝や帰りの短学活においても机の並びは6人グループで配置している。どのクラスよりも早く着席し、落ち着いて担任の話聞く態度は学習にも反映されており、積極的な発言は少ないが、真剣な取り組みができる学級である。アンケートでも分かるように、グループ活動のとき「よく自分の意見も言うし、みんなの意見もまとめる」が0%から7%に、「よく自分の意見を言う」「みんなの意見をまとめることが多い」がともに4%増えたというのは、おとなしい本学級の生徒の回答として大いに評価すべき点である。また、「ほとんどの場合、人の意見を聞いている」生徒の5%の減少は、聞き手から話し手に回った生徒の増加を示し、グループ活動の活性化を表している。このような積極性が見られることから、司書による「10分でたどるおくの細道」の話、イメージを膨らませながら聞くことで、江戸時代の旅についての知識を深め、興味を持つことが期待できる。生徒は昨年度後半より取り組んでいる、国語リーダーを中心にした4人グループでの活動を好み、学び合いで力をつけている。一斉授業では数に埋もれて、ワークブックでの学習や視写等の作業に取り組まなかった生徒が、グループ学習では生き生きと活動する姿を多く目にするようになった。また、初発の感想をグループで発表し合うことで、様々な角度で物事を見る姿勢が培われ、共感したり、感心したりすることができるようになった。今回の授業においても、感想発表を動機付けとして、深まりのある古典学習を行いたい。

アンケート内容	5月	8月
	%	%
6 グループ学習などをするとき、どの学習の仕方が最も取り組みやすいですか。 (3～4人を選んだ生徒)	22	24
(5～6人を選んだ生徒)	12	7
7 グループ活動のとき、あなたはどのように取り組みますか。		
よく自分の意見も言うし、みんなの意見もまとめる	0	7
よく自分の意見を言う	13	17
みんなの意見をまとめることが多い	3	7
ほとんどの場合、人の意見を聞いている	33	28

## (2) 単元観

『おくの細道』は、これまでに学習した古典（『竹取物語』『平家物語』『枕草子』『徒然草』）に比べ、生徒にとって身近に感じることのできる作品である。それは、題材となる時代の生活が、時代劇や大河ドラマ等の舞台に描かれ、また2年生社会科の歴史の授業の学習効果により、内容がイメージしやすいことにある。

本単元を通して、江戸時代の旅の心と俳諧を文学に発展させた松尾芭蕉の存在を印象付け、高等学校での古典学習につないでいきたい。

## (3) 指導観

本単元では、導入で江戸時代の旅と現代の旅の比較を、資料に精通した学校司書から説明してもらうことで、生徒の興味・関心を喚起し、すんなりと古典の世界へ入り込むことを期待して協働授業を設定した。生徒は、今回で3年生になって5回目となる学校司書との協働授業を受け、旅におけるいこしえ人の心を読み取り、より深く味わうことができるであろう。それが、学校教育目標である「大きな志と真心を持ち のびる生徒の育成」につながるものと考えている。

## 3 目標

### (1) 単元

昔の人々の生活や社会などを想像して読み、古典の心を今に生かす

### (2) 観点

#### 【国語への関心・意欲・態度】

・芭蕉やその作品に興味を持って読み、作者の生き方や考え方について、自分の考えを持つ。

#### 【話す・聞く】

・自分の考えと他の生徒の考えの相違を知る。

#### 【書く】

- ・時間内に原文を視写する。
- ・司書の話聞いて感想を書く。

#### 【読む】

・歴史的背景を想像しながら、人生や自然に対する作者のものの味方や感じ方をとらえる。

#### 【伝国】

・漢文調の言い回しや対句表現など、作品の持つ表現の特徴に注意し、格調高い名文を読み味わう。

## 4 単元の指導計画（8時間うち『おくの細道』は3時間）

- ① おくの細道の旅の概略について知り、自分の考えを持ち冒頭部分を視写する（本時）
- ② 冒頭文の読み取りと平泉の視写
- ③ 平泉の読み取りと発展学習（関連作品を紹介する司書のブックトーク）

## 5 本時

### (1) 本時の内容

「おくの細道」の旅の概略について知り、自分の考えを持ち冒頭部分を視写する。（導入）

(2) 本時の目標

- ① 司書の話聞き、「おくの細道」の旅をイメージする。
- ② 自分の考えと他の生徒の考えの相違を知る。
- ③ 時間内に原文を視写する。

(3) 本時の展開

過程	学習活動	形態	指導上の留意点	備考
導 入	1. 学習目標を確認する	一斉	学習のめあての提示	ボード
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【学習のめあて】</b> 『おくの細道』のあらましを知り感想を持ち、冒頭文を視写しよう</p> </div>			
	2. たしかめタイム		松尾芭蕉についての知識を問う A 説明できるほど知っている B 何をした人物か知っている C 名前だけ知っている D 知らない	
展 開	3. 司書の話聞く	一斉	生徒の表情を見て、必要なら補足を加える。	PCをTVに 接続 評価①
	4. グループで感想発表	班	ノートに簡単に感想を書き、それをもとにグループ発表をさせる。	
	5. 代表者が全体発表	一斉	リーダーを中心に話を進め、代表者を決定させる。 自分の意見との相違を感じながら聞くよう指示する。 質問があれば、司書に答えてもらう。	評価②
	6. 冒頭文の範読に合わせ音読する	一斉	歴史的仮名遣いに注意させる。	
	7. 冒頭文の視写をする	班	1分間で50字以上を目指す 視写の時間を8分で切り、あとは宿題とする。	8分以内を 目標に 評価③
	8. 再度音読をする	一斉	声をしっかり出させる。	
終 末	9. たしかめタイム	一斉	松尾芭蕉をどれくらい理解したか?	

	10. 次時の予告	A 説明できるくらい理解した。 B 何を行った人物か理解した。 C 『おくの細道』という作品名は覚えた。 D 理解できなかった。  冒頭文を書き終えたかの点検から始める。	
--	-----------	--	--

(4) 評価

- ① 司書の話聞き、「おくの細道」の旅をイメージできたか。
- ② 初感発表において、自分の考えと他の生徒の考えの相違を知ることができたか。
- ③ 8分以内に原文を視写できたか。

\*おくの細道の表記について

『        』は作品名  
「        」は旅の総称

(板書計画)

A B C D	○発表	○グループの感想をまとめる	○初感	あらかしを知り感想を持ち 冒頭文を視写しよう	おくの細道 松尾芭蕉
------------------	-----	---------------	-----	---------------------------	---------------

(座席表)

ホワイトボード (正面)

3班 ●            □☆ ●            □ ●	2班            □            ●☆ □            ●	1班            □            ●☆ □            ●
6班            □            ●☆ □            ●	5班            □            ●☆ □            ●	4班                       ● □            ●☆ □            ●
9班 ●            □☆ ●            □ ●	8班            ●            □☆ ●            □	7班                       □☆ ●            □ ●            □

☆は国語リーダー